

アメリカ・ペンシルバニア大学視覚関連研究ラボ訪問記

筆者はアメリカ・ペンシルバニア州フィラデルフィアに位置するペンシルバニア大学に1年間留学し、色恒常性に関する研究をしておりましたので、ペンシルバニア大学とフィラデルフィアについてご紹介したいと思います。

1. ペンシルバニア大学とラボ紹介

ペンシルバニア大学は、アイビーリーグに属するアメリカ最古の大学のひとつです。1740年創立ですが、医学部は全米最古といわれており、医学部や生物医学研究所は有名です。また医学部に限らず各大学院における研究に力を入れており、全米だけではなく世界中から多くの留学生が集まっています。

大学構内には歴史を窺わせる美しい建物が立ち並び(図1, 図2)、創立者の一人でありアメリカ独立宣言でもよく知られるベンジャミン・フランクリンの銅像があります。これらは学内観光スポットとして新入生やその保護者に人気です。

すべての学科が University City とよばれる地区に集まっていることが特徴で、そのため、異なる分野/学科にわたる学際的な研究がさかんです。筆者の在籍していた David H. Brainard 教授率いるラボは Department of Psychology に属し、おもに視覚(色覚や明度, グロスネスなどの知覚)に関する研究を行っていましたが、ラボ内のゼミのほか、他の知覚・認知関係のラボとの横断的なゼミに参加し



図1 ペンシルバニア大学 (The quad).



図2 カレッジホールとベンジャミン・フランクリン像(建物正面)。



図3 ラボの入っていた建物。

たり、IRCS (Institute for Research in Cognitive Science) のセミナーや、視覚に関する学内外の研究者を招待して行われるセミナーにも参加することが可能で、分野間の垣根にとらわれず交流がさかんなことを感じました。他のラボとの共同ゼミでは、ラボ内のメンバーとは異なった視点から意見を得られることもあり、聴講する側だけではなく発表する側にもメリットがあると思います。

筆者がお世話になったラボは、1階にコーヒーショップやドラッグストアなどが入る比較的新しい建物にあり(図3)、知覚・認知に関するラボが近くに集まっていました。ラボの研究テーマは、明度知覚に関する研究(傾きと明度

知覚の関連性、影や透過性の認識と明度知覚の関係、プロジェクターと液晶パネルを組み合わせて作ったハイダイナミックレンジディスプレイを用いた輝度と明度知覚の関係、グロスネスと明度知覚の研究など)、色覚に関する研究(色恒常性など)、神経科学寄りの研究等とさまざまでした。

2. フィラデルフィア

University City から Schuylkill River を渡ると、すぐにフィラデルフィアの中心地 (Center City とよばれる) となります。フィラデルフィアはアメリカで6番目の大都市ということもあって、地下鉄やトラム、バスといった公共交通機関が比較的発達しており、車を所有していなくても市中心部の移動であれば困りません。必要なときだけレンタカーやカーシェアリングを利用することもできます。ま

た、市内にはカフェやレストランも多く、気候のよい季節には、外のテラス席でグラスを傾けつつ会話を楽しむ人が通りに溢れます。アメリカ四大スポーツが勢揃いし(野球チームのフィリーズ、アメリカンフットボールのイーグルス、バスケットボールのセブンティシクサーズ、アイスホッケーのフライヤーズ)、国内でも有数の美術館を有し、さらに、国際的に有名なフィラデルフィアオーケストラの本拠地でもありますので、大学での研究以外にも楽しみが豊富な街だと思います。

フィラデルフィアは、NYとワシントンDCの間に位置し、電車や車でNYまで2時間程度、ワシントンDCまで3時間半程度という便利な場所でもありますので、東海岸を訪れる予定がありましたら、足を伸ばしてみてもいいでしょうか。

((株)ニコン 兼松えりか)